ショートショート集

五十鈴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ショートショート集

【Ｎコード】
Ｎ６３７７Ｙ

【作者名】
五十鈴

【あらすじ】
２００文字～５００文字くらいのすごく短いお話のつめあわせ。基本、お話一つ一つにつながりはありません。現代ほのぼの恋愛ものが多いです。

01．恋わずらい

「恋わずらいを知ってる？」

君は言う。感情の読めない平坦な声で。

気まぐれな君は、そうやって僕の心をかき乱す。

「知ってるよ」

僕は仕方なく正直に答える。

「とてもとても、苦しいものだよ。

けど、捨てることのできない、何より大切なものでもあるんだ」

この想いを消せたら、と悩んだことは一度や二度じゃない。

痛くて、苦しくて。自分の情けなさに吐き気まで覚えるほど。

それでも苦しみと同じくらい、しあわせを感じさせてくれるものだから。

結局、僕は君に恋わずらいをし続けるしかないんだ。

「難儀なものね」

君は笑った。

少し苦味を含んだような、微笑みだった。

02．君の歌

君の歌は輝いている。

キラキラと、僕の心に降り積もる。ふわふわと、僕の心を舞い上げる。

雪の結晶のように繊細で、桜の花びらのように軽やかで。

独り占めしているのがもったいないのに、僕だけに聞かせてほしいと願ってしまう。

歌が終わる。

僕が拍手を贈ると、君は恥ずかしそうに笑う。

「人に聞かせるようなものじゃないね」

君はわかっていない、君の魅力を。

「とてもきれいだ」

言葉で表せるわけもないけれど、僕は告げた。

君の分も、僕が君の歌を――君を、好きでいようと思うから。

０３．雨と太陽と傘係

雨は好きだ。
傘を差すのが嫌いな君と、一緒に帰る理由になるから。

「健志が背高くなったら、私びしょぬれだね」

何がおもしろいのか、理香は笑いながらそう言った。
真昼の太陽みたいに明るい声と笑顔。
彼女自身がお日さまだから、雨が嫌いなのかな。そんなことをぼんやり思う。

「理香の傘係が務まらないなら、背なんていらないよ」

成長期にあまり伸びなかった僕は、理香と十センチも違わない。
でも、僕はこのままがいい。
彼女がぬれるのも嫌だけど、彼女と帰る理由がなくなることが嫌だった。

そうして今日も、僕は雨に感謝する。

０４．食べすぎ注意

「う～、食べすぎたぁ」

口と腹を押さえて、美紀はげっそりした声でつぶやく。
気持ち悪い、と全身で語っていた。
アホだと思う。心底。
そう言ったらきっと『バカはいいけどアホはムカつく！』と意味不明な言葉が返ってくるだろう。
いや、今はそんなこと言う元気もないか。

「限度ってもんを知らねぇよな」
隆はため息をつく。
駅前に新しくできたケーキバイキングに二人は行った。
時間配分も考えずにバカスカ食べまくった結果が、これだ。

「隆と一緒なら、無茶しても平気かなって」

どういう理屈だよ。とつっこむこともできず、隆は顔を背けた。
赤くなった頬を、美紀に見られないように。

05．罰ゲーム

罰ゲームは愛の告白。

「横暴だっ！！」

「なんとでも」

私が怒りと共にぶちまけたトランプを、彼は平然と拾い集めてく。

ひどい。ありえない。サイアク。こんちくしょう。

何を言っても効果がない気がして、心の中で好きなだけ文句を挙げ連ねる。

……そりゃあ、私からは、ほとんど言ったことないけどさ。

「こういうのはむりやり言わせるものじゃないと思う！」

私は言い逃れを試みる。

「むりやりにでも言わせたいから、罰ゲームなんだろ」

トントン。集めたトランプを整えて、彼は箱にしまう。

横から覗き見た表情はどこか憮然としてる。

そんなに私に好きって、言ってもらいたいの？

そんなに私の言葉がないと、不安なの？

いつも余裕なはずの彼が、今はなんだかかわいく見えて。

たまには素直になってもいいかな、と思った。

06. 翼

どこまでも広がる大空を、今日も彼は飛ぶ。
日の光をあびて輝く真白い翼を羽ばたかせて。

「やあ、今日はどこまで？」

仕事仲間が並んで飛びながら、声をかけてくる。
鮮やかな緑色の翼は、芽吹いたばかりの双葉を思わせた。

「海と二つの山の向こうさ」
「そりゃあ大変だ」
「腕が鳴るよ」

彼は朗らかに笑う。

「想いは早く届けた分、伝わるものだからね」

荷が重ければ重いほど、彼の翼は力強く羽ばたく。
込められた大切な想いのために。

07．綺麗な別れ方

「綺麗な別れ方ってどんなだろう？」

彼女は唐突にそう言った。

「何？　別れたいの？」

僕は平静を装いながら訊く。

内心は、気が気じゃなかったけど。

「さようなら、あなたのことが好きでした。

とでも言われたい？」

それが彼女にとっての綺麗な別れ方なんだろうか。

好きなら別れなきゃいいのに。

そう思ってしまう僕は、絶対に綺麗になんて別れられないんだろう。

「勘弁してクダサイ」

おどけつつも、かなり本気だったりする。

僕の答えに楽しげに笑う彼女を見て、別れは当分来なさそうだと、安堵した。

08．名前

「理人♪」
嬉しそうに、あなたが僕の名前を呼ぶと。
僕もつられて笑顔になる。

「理人〜」
甘えるように、あなたが僕の名前を呼ぶと。
僕は少しだけ困ってしまう。

「理人……」
助けを求めるように、あなたが僕の名前を呼ぶと。
僕にできることならなんでもしたいと思う。

あなたに名前を呼ばれるたびに、僕は僕になる。
あなたの声で呼ばれるたびに、僕は僕を知る。

あなたのことが好きだという、僕の想いの名前を知る。

０９．中秋の名月

満円の月を仰ぎ見ながら、ふと君を思い出す。

「月は綺麗だけど、怖い」

前にそう言っていた君は、今も怯えているんだろうか。
一年で一番綺麗な満月を見ようと、こうして空を仰ぐ人が多い中。
なんでもないふりが上手な君は、不安を隠しながら笑顔を浮かべているんだろうか。

君が無理をしていないか心配になって。
僕は携帯電話を開く。
すぐに駆けつけられる距離ではないけど、声なら届けられるから。

「あ、もしもし？」

１０．願い

願いは叶うものなのか、叶えるものなのか。
そこにあるのは受動的な意志か能動的な意志かの違い。

「叶わせるものよ」

わがままな君は強気に笑う。
第三の答えを出せて、満足そうに。

「私の願いは、あなたにも、神さまにだって、叶わせてみせるわ」

僕の考えなんて興味ないし関係ない。そう言わんばかり。
君の中にある意志は、とても他力本願で、悲しいまでに無垢で。

きっと僕はその意志を守りたくて、君の願いを叶えてしまうんだろう。

11．愛憎

君のことが好きすぎて、好きだから苦しい。

僕の想いに気づきもしない君。

僕以外の男と話して、僕以外の男に笑いかける君。

純粋？　無垢？

ただ子どものように考えなしなだけだ。

愛情は積もり積もるほど、憎悪に姿を変えていく。

愛おしさと、憎しみ。『愛憎』という言葉を痛いほど思い知らされる。

綺麗なままではいられなかった自分が、悔しくて、哀れで。

この変質した想いを抱えながら、今日も僕は君に微笑みかけるんだろう。

君は何も知らずに、僕の笑顔にだまされるんだろう。

１２．大好きが苦しい

「大好き♪」

恥じらいもなく、無邪気に告げる君。

向けられる笑顔に、言葉に、声に。
込められているのはただの“親愛”でしかなくて。
勘違いすらさせてもらえないほど、はっきりと、きっぱりと。
温度差が二人の間に消えることなく存在している。

「僕も、好きだよ」

声が上ずってしまったことに、気づかれなければいい。
君にはいつも変わらず笑っていてもらいたいから。
そう、願っているのも本心のはずなのに。

たった一言を告げるのが、こんなにも……苦しい。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6377y/

ショートショート集

2011年11月22日02時54分発行